

2020 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	一般社団法人 データクレイドル
活動テーマ	平成 30 年 7 月豪雨倉敷真備地区の被災経験を生かした女性視点の災害セルフケアマニュアルづくり



	上段：メール利用のできごと 下段：調査のできごと	印象に残っていること、こまったこと、うまくいったことなどなんでも
7月6日 金曜日	災害：北川 避難し緊急避難はしめる 気象庁が岡山、広島などを対象に大雨特別警報を出したと発表。最大級の警戒を呼び掛ける。岡山県では初。郡社市下帯の朝日アルミ産業の工場が午後 11 時 35 分ごろ爆発。付近の住民多数が怪我。 安否確認継続	不安な産をすこす
7月7日 土曜日	未明から朝にかけて、倉敷市真備町地区の小田川、高馬川や岡山市東区の一部川などの水位が次々と決壊。1.0 周川、1.8 方周に。 なつちやん+正利へ メッセージSMS 3人ミーティング	Yさんの訪問終了 利用登録の無事をしめる ・電話、ライン、メールつながりにくいどうしよう 携帯充電完了 備入 携帯を使用 ・スタッフみんなに連絡かけることになる。申し訳ないと思った
7月8日 日曜日	北川さんから携帯受け取る。みんなで集まってミーティング無事で良かった エー礼の平田さんから変更 倉敷市が真備町地区の推計被災戸数を4690戸と発表 安否確認でまてない方々を探しに避難所へ	利用メッセージグループ「メール伝達団」立ち上げ(52人) *必要物資や困っていることの情報共有
7月9日 月曜日	・福岡再開発部クワッドから出発 露の出発 露クワッドから訪問出発業務再開	えーる事務所の写真を見て、真備に入り事の中で豊野さんと涙。私が泣いている場合じゃないと思った 「福岡仕事は休んだほうがいい」「露クワッドいつまでいるの？」など言われて私



平成 30 年 7 月豪雨の被災地である倉敷市真備地区において、ヒアリングや記録づくりワークショップを開催して、災害時の出来事や生活復興の過程に関する情報を収集してデータ化し、今後の災害セルフケアに活用できるよう整理した。

地域住民、みなし仮設住宅で暮らす方、隣接する市に避難した方・受け入れた方、障がい児家庭、介護職、外国人等を対象として災害時の出来事、被災生活で困ったこと、災害後の健康課題等をヒアリングし、記録づくりを行った。

データを時系列整理、地図上に可視化することで、年代、性別、職業などによって、災害直後の対応、復旧、コミュニティ再建の仕方も多様であることが見えた。特に、被災地では育児や介護のサービスが機能不全に陥る一方、ニーズは急増し、可視化・価値化されない無報酬のケア(unpaid care giver)が増大していた。ケア提供者が過労に落ちいり、二次災害にならないような対応を検討することが重要であることを確認した。

また、ヒアリングやワークショップを通じて収集したデータから、水害から生活を守る減災ケアの考え方をとりまとめた。